京城新聞

●慶尚南道 農商狀況（二）

昌原郡其附近

▲作柄　本郡附近は春來雨量は可なり十分にして挿秧後生育佳良なりしも出穗期に於ける大風のため多少の損害を受く又中稻、晩稻は目下結實期に際せるに過般來一向降雨なきため結實模樣十分ならざるやの觀あり大豆は殊に甚しき風害を被り就中夏物は一層その害の甚しきを見る其一般狀況に就き馬山浦在留邦人中信ずべき當業者の意見並に附近韓人の見込及視察途中の實見等を綜合するに本郡及咸安熊川漆原等の各郡を通じて米作は先づ昨年を平年の九步作と見ば本年は其一割減即八步作內外なるべく大豆は夏物は三割減、秋物は一割

固城

鎭海へ六里…統營へ五里
馬山へ九里…

韓人戶口（邑及其附近）一千七百二十四戶、七千七百餘人

日本人（同上）邑內三十二戶（男五十女四十三）邑外各地十一戶（男三十女二十三）あり其職業の大別は穀物商二、雜貨商十五、農業九、漁業八、賣藥二、宿屋一、大工二、官吏四戶等とす又日本人會及日本人小學校あり（生徒十名）又當地には淸國人の來りて雜貨商を營むもの四戶あり

△作柄　本郡は此附近に於る有數の米產地なれ共全水田の約六割は水利の便十分ならず旱害を被むること多し本年の如きも挿秧の時季に際し降雨なく空しく二十日以上移植を遲延せし所ありて其生育十分ならず加ふるに目下結實季に際し一向降雨なきため多少の旱害を免れざるべし然れ共水利の便ある所は生育頗る良好にして作年より約二割以上の增收なるべければ平均せば先づ昨年と同樣又は多少の增收を見るなるべし

△商況　本郡は諸種の農產物に富み又魚鹽の利ありて住民の生計稍餘裕あり從て諸雜貨類の賣行良好尙追々發展の餘地ありと云ふべし

△通貨　上納錢の外其大部分の取引は主に葉錢を用ふるも市場等にては新貨の流通亦尠からず尙追々其流通を增すべき傾向あり

△人氣　由來當地方の人民は其性格の稍卑劣狡猾なるは普く他地方人の知る所なるも已に十數年以前より本邦商人の行通頻繁にして特に是等邦人を主とせる問屋業者（韓人の）等のあるあり從て彼我交情稍々融和しつゝあるものゝ如し

△附記　交通及保護機關

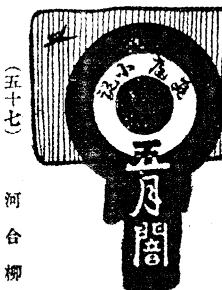
陸上には東馬山浦、西晋州、南統營に通ずるの國道あり又近時統營より時々石油發動機船（荷客用）の航行するあり又郵便取扱所ありて隔日に郵便物を發送す其他巡査駐在所（日人巡査二韓人巡査三）あり

泗川

固城へ六里…晋州へ三里

韓人戶口（邑內六百戶）二千四百余人あり

日本人十五戶（男十八女十一あり）職業の主なるものは官吏四、雜貨商三、菓子二、宿屋一、質屋一、穀物一、會社出張所（金貸及土地買收）二、敎員一戶等なり又憲兵分遣所、巡査駐在所、郵遞所あり（普通及書留郵便等の引受を爲し隔日に發送す）



（五十七）　河合柳葉

「お召になりましたは何か御用で被在られまするか」と、大殿の未亡人三輪子の前へ恭しく伺候したは家令淸川道恭であつた。

「些とお前に內談為たい事が出來ましたから、マアずつと近う進むが宜い。」

云ふは三輪子である。

淸川は、命に從つて二三步前に座り進むだ。

「餘の義ではありませんが、先程爲雅から書面が來たのでね、披いて見ると、病氣がスッカリ全快したと云ふ醫學博士の診斷だから、來月の初旬に歸京すると云ふ報知なのだ、ところが其の綿に滯在中側で世話をして下れた女を一人連れて歸ると、恁う記してあるのだがね、何分にも其だけ書いてあるだけで詳しい事が知れないのだが、お前何と思ひなさる。」

「實は私も只今お伺ひ申さうと存じて居た折柄でございました、私の手許へも大山から書面が參りまして、御前御全快の御樣子を認めました末に、猶且御病氣中お側でお世話を申しあげた女をお連れ返りになるから、一寸前以てお知らせする、尤も女の素性は正しいもので御前の御全快も此女の力與つて多いと、態々に書添へてあるのでございます、そこで私も只今種々と考へたのでございますが、これでは普通の女中ではあるまいかと考へましたのでございます、なぜと申しますに、御病氣中のお世話を爲た位の事なら、何も屋敷へお連れになるにも及びませず、假令其女がお願ひ申した爲に餘儀なくお連れになると致しましても、殊更に素性が正しいなど、素性の事まで書添へる必要はないかと存じます。それやこれやを想像致しまするると、殊に依りまするると、御滯在中お徒然にお伽を命ぜられた女ではあるまいかと愚考致しますが、しかしこれは私の想像でございまして、何分にも詳しい樣子が記してございませぬゆゑ、確と申上ぐる事はなりかねまする。」

「しかし、病中でもあり、大山も附いて居る事だから、然う云ふ事はあるまいとは思ふけれども、こればかりは何とも言はれない若も然う云ふ事情のある女であると假に極めたら奈何したものであらう、女などを連れることは見合せた方が宜からうと、直樣書面を出したもんであらうか、それとも連れて來た上で、普通の女中なら召使つてあつて、[illegible]なら直に暇を取らすやうに爲たもんであらうか、奈何したらいゝであらう。」

「左樣でございますね。」と、淸川も當惑さうに思案した後

「私の愚見を申上げますれば、現今お屋敷へ女中が不足と云ふではございませず、假令奈何云ふ性質の女に致しましても、女をお連れになると云ふ事は、絕對に宜しい事ではないと考へまするか、若も私が想像致しまするやうな女でございまするると、此方から何と申上げました所で、必然お連れ歸り遊ばすに極つて居りますが、貴女樣の御心としてお手紙位はお出し遊ばした方が宜いかと存じます。しかし、御病氣が御全快遊ばしましたは何よりもお目出たう存じます。」と、今更らしく恭々しくお祝を申上げた。

「ではマア左も右も手紙だけは出して置きませう。」



▲無料紹介欄▼

人事部

姙婦產婦の依賴に應ず但貧困者に限り無料　城南山町二丁目百廿番戶　內務省免許產婆原口都矢（九四）

齒多く義齒挿入せしも未だ曾て貴院技術に遠く及ばず其妙々なる口中頓に青春を迎へ候事茲に深く感謝申候　京城齊藤齒科醫院御中　東京國民新聞社員山本（九五）

●酌婦三名入用　本町一丁目田舍家（九三）

夜間自宅にて筆耕に從事す御依賴の方あらば御申越し次第參堂の上委細承致すべし　姓名在社（七四）

仲居入用　年齡十七年より廿五六年者至急一名入用但料理店に心得の有る者なれば尙宜し　大和町一江戶善（七九）

●年齡廿五歲（妻帶者）會社銀行等の小使ひに雇はれたし　姓名在社（八〇）

●十四五才の小僧入用　但身元引受人を要す　氏名在社（八三）

淸語　夜間七時より九時迄敎授す　南大門通南門湯裏相生町一　淸語速成學會（八五）

電話至急讓渡たし　姓名在社（八六）

小供入用　但十八以下　氏名在社（八七）

●雇れ度　年廿五歲にして普通敎育あり體格極めて壯健何處にてもよし至急雇われたし　氏名在社（八八）

●年二十四調劑の心得あり醫院病院の藥局生に雇はれたし　姓名在社（百）

●玉突場ゲーム取　十五才より二十才迄の男女各一人入用相當の手當を給す　龍山旭橋通原田與吉（九六）

●廣島縣人石塚正一氏に面會したし　本町四丁目知人（九七）

人力車夫至急十五名募集　氏名在社（九二）

物件部

一本町より明治町に入三軒目空地三十坪并附の貸家あり　櫻井時計店（七六）

裁縫、刺繍、編物、造花、摘細工、英語敎授す和服仕立物御注文に應ず　大和町三丁目廿六番戶　古谷（八一）

貸地　龍山十五間道路南大門外四千坪割貸　本町四ヶ所洋物店電三二一番（八二）

●望借家　六疊四疊半各一溫突一間並押込炊事場付の家を借りたし　氏名在社（八九）

空地七十坪ヲンドル九間格安賣渡したし　氏名在社（九〇）

貸地　旭町一丁目高燥風景善き土地四十坪あり御望の御方は下名へ　電話四九四番　淸韓洋行（九一）

賣地　本町八丁目通り地所貳百坪溫突八十八間の建家共至急賣却致度御希望の方は御來談を乞ふ　姓名在社（九八）

賣地　本町八丁目通り地所四十坪溫突十間建家の價格安にて至急賣却　姓名在社（九九）

京城新聞

舊慣制度調査

韓國の舊慣制度を尊重して之を保存せんが爲に調査をなすの謂にあらず、之を斟酌適用して簡明なる典章を編成せんが爲に外ならず、統監府設置以來之が調査をなさんとして着手せられたるも之に重きを措かずして甚だ冷淡なるが如し、從て未だ何等觸目すべき調査をなしたるを聞かず、當局者が三年間に亙りて施設する所を見るに一に日本の制度を適用したる法制を雨の如く降らしむるのみ、風俗習慣を異にしたる韓國人をして殆ど茫然たらしめたり、余輩は素より日本の法律制度の良否を以て之を韓國に移すことを云々するに非ず、極て東洋的なる韓國人の頭腦に不適當にして到底完全なる統治をなし得べからざるを惜むればなり由來韓國人は文物典章の人にして實行の人に非ず、故に韓國古來の法制々度を見るに清國と同一にして文物典章燦然たり、之を實際に行ひ得れば韓國は決して今日の衰微を見ざるなり、制度としては甚だ立派にして恐らく文明の制度に愧ぢざるべし、然れども唯だ典章の上のみにして毫も實行の之に伴はざるを如何せん、要するに韓國人は口の人筆の人にして實行を重せざる爲に今日の境遇に至れるなり、病根既に茲に存す如何に完全なる法律制度を布くも之を實行せしむるの方法を講ぜざるに於ては何等の效力なし、而して之が實行をなさしむるに於ては複雜なる文明式の制度にては彼等の頭腦に了解せられざるなり從來の文物典章が余りに彼等の知識に比して高尚なりしが爲に實行せられざりしなり、文明國人と未開人とは自ら統治の方法を異にせざる可らず、亞弗利加の黑人に向て英國の立憲制度を布くも何の効かあらんや、韓國人も亦夫れ相應の制度に依りて統治せざる可らず、英國が印度を統治するにも佛國が安南及チユニスを統治するにも夫々舊慣制度を調査して其國民適當の制度を布設するに非ずや帝國の臺灣に於てさへも必要に迫りて舊慣制度調査會を設置せるに非ずや、舊慣を調査するは之を斟酌して簡明なる統治法を制定するが爲のみ、今日の韓國人には未だ復雜なる文明式の法制を布くの効力少きを思ふ、口舌の韓國人をして實行の韓國人たらしむる方法を講ずるの急務なるを思はざる可らず、華麗典雅の文物典章は古來より韓國にあり、殊更に輸入するを要せんや、伊藤公式の制度は韓國に適切ならず、唯簡明なる制度を必要とするなり、當局者は宜しく從來の如く冷淡ならずして舊慣調査を實行せよ、能く韓國の事情に精通せる日本人と最も性質良き韓人とを以て之に當らしむべし、東洋拓殖會社の事業を經營する上に於て此調査は最も必要缺く可らざるものならむ余輩は此調査の結果に依り之を斟酌して簡明なる制度を編成し以て之を實行せしむることは韓國統治上の急務たるを感ずるなり。

漢城便り

▲本年の天長節が例年に比して最も盛熾に祝され候ことは余輩の衷心愉快に感ずるところに有之候彼の勤儉力行の詔勅を曲解して万事質素に否消極的に行わんとする馬鹿者の多き今日に於て曾禰副統監、三浦理事官、熊谷民長等が盛觀迎合に勉めざりしは余輩の多とするところに有之候

▲只殘念なるは本年の佳節祝賀會も從來の如く階級的にして普通的國民的に非ざりしことに候願はくは來る四十二年に於ては文武官民各已れに偏せず同じく　陛下の赤子として唯一の大合同祝賀會を催し候樣今より心掛あらんことを希望致候

▲曾禰副統監が新作奉祝歌を餘興に加へたるは大出來に御座候併し之丈にては少しく物足らず感じられ候英米獨佛何れの大祭祝賀會に於ても御馳走に附物はオレーションに御座候來年よりはオレーションの事何とか被成度今より御注文申置候但し其際春畝公か風を引きたる蚊の樣なる聲にて平和人道門戸開放等のお談議を爲さるゝとすれば記者の注文は今より撤回致すべく候

▲京城の習慣とも申すべきか只り天長節園遊會のみならず如何なる園遊會に於ても其立食場には白靑の席を設けあり候而して同じ万歳を唱ふるに當つて白席者はシャンピンの杯を擧げ靑席者はビールの泡を嘗む、之甚だ見苦るしきことに候而して外國人の如きは已れ特待せられながら偶々立食卓の平等的ならざるを見て不快を感ずる者もありとの事に御座候

▲東洋拓殖の株式引受申込弗々有之候との事及聞申候思ふに此種會社の株式を持つは敏活なる金融を要する商人などには禁物に御座候併し後家、官吏其他自家の遊金を都合良く利殖し得ざる人々等は進んで株主となるべきものと存候殊に韓人に於て然りと致候

▲東拓の權利株が五圓十圓に飛ぶならんなど夢みて手を出せばソレコソ大間違に御座候株式界に於ける一昨年來の手負猪が今回の東拓に因つて盛返りしを試むるが爲多少の波瀾はあるべしと雖朝鮮移住民などが彼等の渦中へ投ずるは必ず避くべきことに御座候

▲官を統監府と韓政府に有し身は無料にて統監府官舍に住し乍ら韓政府支給の舍宅料を受取り居る猾多數有之候との事聞くさへ其心情のサモシサを被思候廉潔を缺ける日本人官吏は總て韓人の口の葉に掛り可申候

東京電報

▲香港の排日暴動

香港に於ける清國人の排日的暴動に關し外務省は香港官廳に對し交渉中なるが同騷動は容易に鎭定せざる模樣なり

▲拓殖株申込景況

東洋拓殖株式會社株式申込は今日正午迄の株數四千六百二十にして此の内鶏本宮家よりの申込千三百株にて各地一般に景氣よく三倍以上の申込となるべし

▲香港暴動續報

香港副領事よりの報によれば暴徒數百名群をなして清國海産物商の倉庫を毀ち大雅の日本人商店を掠奪する等兇暴甚しく廣東より五百名の暴徒入り込みたりとの說あり犯人百餘名捕縛せられたり(以上五日發)

雜報

●韓皇の下賜金

韓皇陛下には水原行幸の砌り鐵道管理局は特に宮廷列車を供し諸般の設備を奉仕に思召され今般同局所員に金八百圓を又沿道警衛の任に當りたる諸兵士一同に烟草酒の下賜ありたり

●副統監の獻菊

曾禰副統監は兼ねて菊花の培養に就ては多年の經驗家なるが自ら栽培せられたる菊花各三鉢宛韓皇帝太皇帝陛下に四日獻上せり

●拓殖株式の申込

昨四日迄に東洋拓殖株式會社株式申込數は千三百六株にして内日本人二十一人四百七十四株韓人二十四人五百六十二株なり

●拓殖株式の募集

十一月一日より十日間に募集すべき拓殖會社株式應募の豫想に關し設立委員長正親町伯は語て曰く銀行家の觀測によれば六七倍の應募者あるべしとの事なるが凡そ株式募集の如きは市場の景氣と人氣の如何とに依るものにて滿鐵の株式募集の如きも初より千倍以上の應募あるべきを想像したるにあらず、一時に人氣の乘りたるため非常の應募者を出したる次第なれば今回とても如何なる機に如何なる人氣を生ぜんも計り難く從て應募數の幾何に達すべきかは豫想に苦む所なり左れど今回は滿鐵の場合と異り募集委員長の意見により隨時銀行より徵收し得べき事となり居るが故銀行は常に之に對する相當金額を用意せざるべからず從て滿鐵株の時の如く其證據金を流用して誠實ならざる應募者の便宜を計る可からざる事情あり投機的の應募に對する警戒の方法あるが故に適度の應募者を得らるゝ事ならん而して韓國人中土地の出資に依りて應募せん事を希望する者は多かるべきも土地の出資は六万株に制限せられたれば其以外の現金の出資に依る應募數は數十萬株に過ぎざるべきか云々

●拓殖株應募數

目下株式募集なる東洋拓殖會社の株式申込は四日午後五時迄に於ける東京創立事務所へ申込高は六千四株ありと云ふ

●韓國漁業取締

韓國近海の漁業者が漁獲に爆發物を使用するが爲め魚類の繁殖を防害すること頗る大なる者あるも其取締を普通警察官のみに委ね置きし爲め充分取締る能はざりしが今後は日本政府に於て軍艦をして其航行の序を以て相當の監視を爲さしめ現行犯者は直ちに之を逮捕すべしと

●清國の對韓要求

清國政府は豆滿江岸の馬賊が韓國土匪と氣脈を通じ討滅難を韓國政府に嚴談せりと

●日露連絡問題進捗

遞信省に於ける日露連絡會議にては關係線鐵道汽船會社及び當局者との協議に基き連絡航路に就て既報の如く協定を遂げたるが更に旅客の通切符發行及び通し貨物[illegible]行の件をも夫々決定を與へたる由なれば本月露都に於ける兩國代表者會合協議の結果は近く東京、露都間の交通に一新面目を呈するならんと云ふ

●天日製鹽の官營

韓國政府は豫て天日製鹽の經營中なりしが其の成蹟佳良にして財源として大に有望なるを以て愈々官業として經營するの案を立て昨日の參與官　議に於て大体の方針を決定せりと云ふ

●斷髮勵行の影響

過日水原京畿觀察府に開かれたる府尹及び郡守會議に臨めたる以來仁川府尹金潤昌氏が極力管内一般の人民に對し斷髮令を勵行しあるより愚昧なる近在部落の韓人は仁川港に至れば直に年來蓄へたる結髮を斷たるゝものと速斷し商人に至る迄成る可く出京を避くるの姿なれば邦人にして韓人向雜貨を商ふ者の如きは取引毫もなく危殆に瀕し居れる由にて遣は看過すべからざる問題なれば同地商業會議所に於ては昨今是れが事實の調査に從事し其程度如何に依ては十分救濟の方法を講ずる筈也と

●成均館司業試選

成均館司業試撰規程昨日の官報を以て頒布せられたるが右は過日官制を改正せられたる成均館の學生に非ざる全國各地の四十歲以上の儒生の希望者を試驗する規程として試驗を分て初考及び會考の二種とし初考は學部大臣試驗問題を定め漢城府及各觀察道に於て筆答試驗を行ひ學部に於て之を考選し會考は初考に合格したる者を學部に召集して口答試驗を行ひ合格者は成均館の卒業生と同じく司業の稱號を與へ判任官待遇となすものなり

●新任露領事訪問

新任露國總領事ソモフ氏元總領事代理副總領事ケルベル氏は五日午前統監府に副統監及外務部長を訪問せり

●二大臣の歸城

地方學事視察中なりし李學部大臣は小杉事務官李秘書官を隨へ開城なる蔘政課視察の爲め出張したる任度支部大臣高法部大臣と共に今夜歸城す

●京城水道成蹟

京城に敷設せられたる水道用水の水質に就ては統監府にて水質檢査を行ひ左の成績の如く其水質は極めて純良なるを證明せり

清澄。中性。色臭味無。過滿俺酸加里消費量〇、三〇八。格魯兒。安母尼亞。硝酸。硫酸硝鹽なし。獨乙硬度四、三七。蒸發殘渣〇、一七五。　統監府技師　兒島高里

●警備電話工事

木浦榮山間及び晋州三千浦間は韓國警察電話第二期線として此程來工事に着手したり

●京城平壤間の電話

京城及び平壤郵便局間に此程一銅線增架工事を開始したりと云へば日ならず竣工を見るなるべく其曉は長距離電話等一層明瞭なるに至るべしと

●人口調査と民籍法

憲兵隊と警察官の協力にて人口調査をなすの件は當局者に於て調査中なりしが何分巨額の經費を要するを以て此の必要にして緊急なる事業も一頓挫を來し目下來年度の經常費に計上して着手する事に關し調査中の由にて尚人口調査に密接なる關係を有する民籍法の發布もために遲延せる次第なりと云ふ

●仁川民團委員會

仁川病院問題に關する第二回委員會は昨日午後六時半より民團役所樓上に於て開かれたり仄に聞く處に依れば委員中縮少案たる原案に同意を表せず仁川病院の經營を一已人に委ね同院醫病を民團公醫に囑託すれば足れりとの意見を抱持する者ありと第一回委員會の際には大に議論を鬪はしたる由なるが其後民團理事者苦心の結果略ぼ議一決し多分圓滿なる解決を見る可しと豫想せらる其詳細は次號に報道する處あるべし

●關稅局會議

關稅局にて開催中なりし鑑定官會議及稅務課長會議は去る二日同時に閉會したるが同兩會にて協議したる事項を決定すべく來る九日より同局に於いて各稅關長の會議を開く筈なりと

●仁川の白米相場

先月末仁川に於ける白米の相場は普通十一圓二十錢位の見當なりしが本月に入り入津米稍々增加したるに不拘坂地相場不昧にて値段引合はざる爲め輸出更になく目下の所捗々しく取引なきを以て値段も漸次下落し遂に二圓方暴落して昨今十一圓二十錢を唱へ居れりと

●特許出願數

八月十六日より十月三十一日迄の韓國特許出願件數は日本特許五十四、意匠四、商標三百十計三百六十八件韓國商標四、著作權一計五件米國商標五計五件なり

●十月中屠殺數

十月中京城に於ける各屠場の屠殺數は牛三百三十六頭豚三百八十六頭なり

●軍隊交代完結

第十三師團の交代は十月廿九日を以て全部の守備交代を完結せり

●軍隊乘船終了

咸興に駐屯しありし野砲兵第十九聯隊第一大隊は十月三十一日西湖津に於て工兵第十三聯隊の全部は十一月二日清津に於て騎兵第十三聯隊第十七聯隊本部と第一中隊は十一月二日西湖津を何れも乘船を終了せり

●騎兵隊歸還

騎兵第十七聯隊一中隊は五日午前十時十分南大門發歸還せり

●軍司令官々舍上棟

龍山に新築中なる駐韓軍司令官々舍は五日午前十時上棟式を行へり

●内部官邸建築

内部大臣官邸を約四萬圓の經費を以て近々建築に着手するとの說あり場所は南山の麓に於て撰定中なりといふ

●各官廳の時間改正

十一月一日より統監府理事廳民團役所鐵道管理局は午前十時出勤午後四時退廳軍司令部は午前九時出勤午後四時退廳執務時間を改正せり

●列車と暖爐

來る十一日より各鐵道列車内に暖爐を焚く豫定なり

●光濟號拔錨

目下仁川に碇泊中なる光濟號は豫報の如く明日午前仁川を拔錨し鴨綠江方面に向ふ由なるが本航の航程は鴨綠江口に敷設しある浮標引揚をなしたる上大和島に寄港して鎭南浦に引返し十七日頃仁川に歸港する筈なりと

●松平子爵晩餐會

松平赤十字社理事晩餐會は昨四日午後六時花月樓に於て開催したるが當日來賓として曾禰副統監李總理閔宮内府宋内部高法部の各大臣有功章佩用社員總委員部商議員幹事三浦委員長熊谷委員副長新聞記者等五十餘名出席松平理事の挨拶國分幹事の通譯あり閑宴酣なる際花月揃翠の藝妓の新案になれる赤十字總會に因みたる滑稽興味ある演藝あり一同歡を盡して散會したり

●妻木博士の仁川行

妻木工學博士は本日坂出建築所工事部長其の他を隨へ午前九時五分南大門發列車にて下仁し豫て用意せる稅關小蒸汽船にて熱心に港内を視察したる後理事官、稅關長、民長、第一銀行支店長、商船、郵船兩會社支店長其の他重なる官民諸氏の發起に係る[illegible]樓の午餐會に臨み主客胸襟を開きて歡を盡し市内巡視の上午後三時四十五分發列車にて歸城せり

●松平子爵出發

赤十字總會臨場の爲め入京したる松平子爵一行は六日午前八時卅分南大門發直行にて歸朝する由

●明石少將の江華島行

明石憲兵隊長には六日發仁川を發し江華島賊狀視察をせらるゝ由

●岩谷參謀の歸任

軍司令部參謀岩谷騎兵中佐は三日歸任せり

●西川鑑定官の着京

今回稅關鑑定官に任用せられたる神戸稅關鑑定官西川庫五郎氏は昨夜來着したるが兩三日滯在の後釜山稅關に赴任すべしと云ふ

公人私人

▲柴五郎(陸軍少將)一昨日釜山へ向け出發

▲長谷川繁治(憲兵隊附三等主計)同上

▲上林敬次郎(度支部書記官)一昨日開城へ向け出發

●近事片々

▲世界の三元首として我今上陛下と獨逸帝と米國大統領とを以て名君と世は歎賞す

▲ルーズベルト氏は精悍猛志溢るゝの人傑に相違なきも我陛下と較するは不倫也

▲世界の名君は矢張り今上陛下と英國エドワード帝と獨逸のウイルヘルム帝なり

▲列國の人物を擧ればルーズベルトチャンバレンビユローウイッテ位の處ならん乎

▲伊藤公は此中に加はる資格ありや如て太郎宰相が此中の登人に參加すべけん哉々

▲カイゼルの爲に蔽れて光を放たざるが獨相ビユーローは列國宰相中の白眉ならん

▲英國外相グレー伯は未だ著名ならざるも渠の外交手腕は慥に列國有數の者ならん

▲典雅にして内心蓋だ強硬なる處故バルメルストンに肖たる所あり將來の大外交家

▲露國では矢張りウイッテ伯名實共に第一流なり彼は財政と外交の手腕を具備せり

▲宰相中に倘一人物あり佛相クレマンソー也彼は慥にビユーローに比敵すべき人物也

▲クレマンソーは外交家に非ざるを以て其手腕尚未だ列國に認めらざるも器は偉也

▲クレ氏は政黨の首領として恰當の人格此點に於てはウイッテもビユーローも及ばず

▲故星亨と比大に性格は異れ共政黨的人物たるに於て同鑄型也而も大に未來を有す

▲チャンバレンは氣鋭硬骨の傑士なれども稍其大を缺く其操守の確堅なる驚くべし

▲桂首相が今少く外交的手腕あらばビユーローと匹敵せんも惜らくは余りに小智也

▲小村外相が今一層大膽に操行堅實ならば故ローバーノフに匹敵せん器も亦小ならん

▲韓國にては李完用が先づ代表的人物伊國の故クリスピー型の極て器の小なる者乎

▲宋秉畯に至ては余りに際物師にして列國に較する人物なしアレキセーフの亞流乎

▲内部大臣官邸南山麓に新築せらる計畫あり其費四万余圓なりと聞く果して然る乎

▲韓國現在の境遇にては大臣官邸の如きは不急の事業たり須く他の有用の事をなせ

▲桂首相は近々隈伯と會見して肝膽相照らして豫算の内示をなすと云ふ至極結構也

▲太郎冠者中々に知才なし斯の如く民間有識者の意見を徵する雅量は大に落すべし

▲斯ては財政の手腕のみならず外交の手腕も見上げた者太郎冠者の前途は甚だ有望

謡曲閑話（三） 獨笑生

第二「練習」聲は腹の下より出す心得にて假りに一升の音あるものとすれば八合五勺位と思ふべし、初習者は五十音字の開口を明亮に練習して後熊、八島、船辨慶等の如き強吟のものを習ひ始め「クセ」より「キリ」迄と、凡そ五六十遍暗誦する程繰り返し繰返し練習すべしかくすれば、田村、經政の如きものと雖も緩急遲速自由自在に謡ひ得べき程に至るべし而して斯の如くにして二三ケ月も習過せん乎、此時には[illegible]しも大きく且つ明亮に一點曖昧の點なきに至るべし而して尚ほ且つ熱心に稽古に力を注がんか追々と上達するに至るべしされど一般の人は此の頃に至るや漸く倦怠の情を起し一のものを覺わざるに濫りに番數をのみ貪らんとす蓋し上手下手の岐るゝ所實に茲に存すと謂ふべく、辛抱強き人こそ克く堂奥に入るを得べきなり思ふに何れの歌曲にもせよ其の骨子を呑み込むを以て緊要とするが如く、謡曲も其の骨子を習得する事に勉むべし餘は練習と經驗とに由りて自然と習得するものなり然り衣服の美なるは色合の如何に存し、謡の巧妙なるは骨子の如何に依る、而して叙上の方法により三十番位を習得し且つ何れも自由自在に謡ひ得るに至らば次には拍子を稽古すべし、大小鼓、太鼓何れも共に其の好む所に任せん、されど始まりには東北の「クセ」尤も其宜を得たりと聞く拍子の練習も最初東北の「クセ」一節を三月以上も稽古すべし、斯くせば他は容易に其理を曉知するに至るべし而して拍子一と通り稽古せばそれにて全たし謡は拍子の練習を補助し且つ一層深く其の趣味を感せしむ、以上の道に由りて習得したる謡は圓滿完全なるものといふべく一度口を開けば調子、音聲、氣合、緩急、節廻、トリ、ヤ、ヤア、ヤヲ、ヤヲハ、ノリ、ハッシ等の諸點も優に巧みとなるべし此の時こそ眞に堂奥に入りたる者にして換言すれば先づ準士官の地位に在り、思ふに寫字の説明は大略右の如し（終）

●慰問袋に添へて

暴徒討伐に從事せる警察隊の勞苦を慰むべく二三日前高知縣幡多郡實業女學校生徒土居菊野なる少女より西部警察署に寄贈し來りし慰問袋に添へて左の如き可憐なる玉章來りたり

世人の耳目を驚ろかしたる日露戰爭も相治まり今や平和の花の滿開に人皆太平を謳ふ折から朝鮮國に暴徒事變のをこりし爲め又もや征討の任にれもむかれし兵士達の御難儀の一方ならざる由はすでに私共の耳目にも度々入り居る事にて御座候が先日先生より朝鮮の有樣兵士の御事共を承り候て一同そゞろに涙をこぼし申し候日露戰爭當時には世人みな其の心になりて兵士どもの御難儀の程をさつしまいらせ候ひしが此の度の事變にはさほどに思ざる人も稀ならぬよしに御座候かゝる時に出で戰ふは又一層つらく思召されとくべつの御骨折の御ことと存じ候然るに此れは全く國の爲め君のための御事にて候へば何卒一生懸命に御盡力遊ばされ惡賊をうち平げなされ候て大日本帝國の名を益々高くなされむ事を伏して御ねがひ申し上候扨て私共は此の度此の如きふくろを進上致す事と相成候ところかくべつの品物にても之れなくまことに〳〵粗末なるものにて御前に差し出すも何となくはづかしく候へども此れこそは私共の眞心より出でたるものに候へば品の良否多少は思召さず御受取下さるればこの上なきよろこびに御座候時候不順の折から何卒御身御大切に遊されん事かげながら祈り居り候 かしこ

高知縣私立幡多郡實業女學校
本科三學年生 土居 菊野

●[illegible]赤十字總會の歌

曾禰副統監には今回の赤十字總會に對する所感を歌につゞりて松平子爵に托し社長松方侯に寄贈せられたるが其の歌は左の如し

あきらけく治る御代の戊申の神無月萬八百に算へける神々方も明日はわかへり召さんとてたさく〳〵支度なしけるきはにたいたちふるくよ千とせを數へて餘る老國に知られざらましことゝからの惡しされふ敵の手負病者をも我の夫等と同じに何の區別もなさずして救ひ助けて慈善の業をしめして人の人たる道を開き通さん心より此吉日をトひもちて興化門なる大闕のあとに擧げたる日の本の赤き十字のほころの支部のもろこし國の總會の其盛況は筆にも口にも云ひにくしさしもに廣き庭せまく萬の國の人波よせてにぎはしく殊さらに土地のサラムの感にうたれしく風情をも見るにつけてもあー嬉しひらけゆくしるしは今日ぞあらはれてのちのはなしのたねさなりけん

韓國京城にれいて 西湖子しるす

●氣の毒なる軍隊

日露戰爭以來母國に歸らず引つゞき各地の守備に任じ殊に昨年以來韓國内地の暴徒討伐に從事せし十三師團の將卒等が今回他師團と交替しいよ〳〵歸還せるに就ては在留邦人は滿腔の感謝を以て此の永き間の勞苦を慰め歸還を送りたるが近頃母國よりの通信に依れば實際彼れ將卒等は氣の毒の念に堪へざるものあり今其の事實の概要を摘記せんに昨今韓國より皈還する軍隊が東京を經て弘前其他へ赴きつゝあり現に或る人が去月卅一日午前二時四分新宿に着して少憩の後弘前に赴く第十五師團歩兵第五十一聯隊第四中隊を慰問したるに面會に來りし者三組あるを見しのみ某將校の談によれば此中隊の中三十四五年入營せし故參の兵も十四五名あり旅順奉天の大戰を經たる後臺灣に守備となり次で韓國へ移りしもの等もありと思ふに此等の兵もの凱旋當時に皈還せば非常なる歡迎を受くべかりしに當時凱旋せず臺灣、韓國等に守備たりしため殆んど國民に忘れられたい親戚故友の訪ふものわるのみならず不幸の軍隊といふべし、但し廣島上陸以來沿道にて靜岡のみは歡迎をなし停車の際日本赤十字社篤志看護婦會靜岡支部と愛國婦人會靜岡支部が聯合して絹はおきを寄贈せりといふ

●世界的の戀 中署管内ご許りにて統

戶はッヒぞ聞き損ねたれど朴兖來ささへいへば日本の大ハイカラ西洋の小ハイカラとして近所での評判高くまるで唐辛のやうな眞ッ赤なネクタイを結びて獨りでハイカラがつて居る洒落ヨボなるが此のヨボ君年はまだ二十と三ッ男が好うて敎育があつてッレで親爺が金満家で東の都に遊學して法律學とやらの一端を學び未來は東洋拓殖會社の副總裁にもなつて見やうといふ素晴らしい抱負を懐き居りたるが故に毎日〳〵ハイカラつて居るのだと親爺を遣込め親いては金をタントつかつて交際家にならずば出世しないのだと許りに遊んで洒落れて飲んで喰つて居る始末に親爺もホト〳〵愛想を盡かしたか何うかは知らねど兎も角此のヨボ君に一人の愛妾あり女は日本人にて年は二八か二九から花の顔月の眉とかの謎へ向きにはあらねども育ちが横濱丈ありて何となく垢拔がしてッ朝鮮あたりへ流れ込んで居る女としては珍らしい程なるが今女の言ふ所を聞くと妾てそは何を隱さう歴々たるもの娘にて夙に青山學院を卒業し横濱にて英語を學び才媛の名聲に高かりしものをソレにつけても朝鮮人を夫に持つしどわらは誰こて不思議に思ふは尤もの次第なれど併し四海同胞一視同仁は之れ文明の習ひラブは人種の異同によつて變るものに非ず神聖のラブは世界的なりと大した理屈を並べては來る人々の度膽を拔き居るとか

妻の呼び方

夫婦相對した場合には夫は妻を「お前」と呼ぶのが普通の言葉である、併し子供でも生長すると「お前」は感心しない、何故ならば母を尊敬する子供の念を薄らがせるやうになる所で「竹や」「澄子」などゝいふは尤も聞きよいやうである、尤も「貴樣」といふ言葉もあるが此の言葉は他人以外妻に對して言ふと、自ら夫の威嚴を示すやうにも聞ゆるが、又其の言ひ方によつて、聞き憎くもなる威勢能く「貴樣ッ」と云ふと、何となく怒鳴り付くるやうになるしそうかと云つて、之と反對に「澄や」「竹や」も餘りに脂下つて聞ゆる、やはり貴樣が主人の威嚴を示して居るやうに思はるゝ、又他人の妻を紹介するときは、目上の人には名前を言つた方がよいが但し全く妻の名を知らぬものを補へて「澄子が〳〵」などいふは餘りよろしくなく又親戚や老人の前に對しては矢張名前を呼んだ方が宜い、次に最も世間で聞くのは「妻」といふ事であるが此れは甚だ宜い、何となく穩和で上品に聞ゆる又は「カナイ」から聞いたとか私の「カナイ」はなど中流どこに多く用ゐらるゝがこの「カナイ」は「妻が」よりは熟した言葉である

●商工勤務社事務所

西部廣坡洞二統八戶商工勤務社事務所といふ得体も解らぬ看版を掲げ居る破ら屋あり看版の字句から熟々惟みると韓國の商工業を奬勵する譯ならんも此れ迄別に重大なる會社としてのみかれ氣の毒ながら輕小なる會社としてさへ聞いたことはなく全体何の事業をするのやらそれさへ却々に外見の得て以て窺ひ知るを得ざる次第なるが何んでも其の會社に出入するものの誰れも一文無しのハイカラヨボにて其の蒜臭き臭をばコスメチックの代りに蠟燭の香と種油の嗅ひで胡魔化し晝食時には四つで一錢のカス〳〵パンを喰ひ何うも西洋の衣食に限るなどゝいふそばから手鼻をかまんとする手をば俄かに氣が附いてポッケットに入れ四邊を窃み見ながらウウンと反り身になつて明日は天氣かなといふやうな面つ付きをするヨボ連許りなるが何にはサテ内幕が余程苦しいものと見ねて去る八月からの家賃を一文も遣らず溜り溜つて大枚一百二十五圓也といふ書き付けをば裏手に住み居る權昌淵といふ家主から責任者に向つて突き付けしも支拂ひ呉れぬ談判に今はヨボ連も吃驚し朝鮮人の地金を表はして一同家主の前に跪坐しアイゴ〳〵と泣き居る聲を兎耳子が聞き付けて腐眼生へ報知しられから編輯局に注進ありたり

●吏員を罵倒す

一昨日正後過ぐる頃民團役所雇某なるものが掃除の税金を取り立つる爲め西部管内齊坡居住のある日本人の家に赴きたりしに折柄其の家に五六人の若者車座となりて酒盛りをなし居りしが其中の一人が回らぬ舌もて吏員に向ひ「聽て何うだ手前などは税金を取り立てる許りが能ぢやあるめい碌々掃除も仕ずエ癖に一体何所を押すとソンナ呑氣な音が出るんでイ……」と不埒にも吏員を罵倒したるより某は赫と立腹せしも相手になつて喧嘩を仕たればとて詰らなき譯と早速其の場を立ち去り所轄なる西部警察署に到り實は斯く〳〵の事柄と具申せしより同署の巡査は直ぐ樣吏員を從へて前記の所に赴き掃除の如何を調べ見しに汚いどころか最も奇麗に掃除され居るより巡査は若者に向ひ爾後を誡めと許りにコン〳〵説諭を加へたりと云ふさるにても公務に從事する吏員を謂れなく罵倒する壯者こそ心得違ひのいたりなれ

●仁川の人京城で喧嘩

長崎縣平民仁川宮町二丁目六、十八松尾虎太郎（四九）は一昨日午後六時半頃民團役所前を通行中後より旭町二丁目左官職酒井繁次を乘せたる一韓人の人力車驅せ來りアツヤと言ふ間もあらせず車輪は虎太郎の腰と足とに衝突せしが其の車夫は何の挨拶もせず其まゝ過去りたるより虎太郎は己れ不埒者奴かと車に追つき車夫の頭上目蒐けて握りツ拳を喰はしたるに乎車上の繁次は早速車より飛び下り俺れの車夫を撲るとは何事かと爰に端なく大立廻りを始めたりしが結局其筋の手を煩はす

●盜んで直ぐ擱まる

中部壽洞統戶不詳閔泳薰（十九）が一昨日午後七時本町二丁目四十番地日韓書房の棚にありし本五冊を掻つさらい逃げんとする所を番頭の松浦といふが引き捕へ南部署へ突き出したり

●怪我人

旭町一丁目九州旅舘中野勘藏（十九）は一昨日午後十一時歌舞伎座で舞台取替の際同坐の道具方岸といふものより怪我を受けたるも示談で事濟み

●歩兵隊の發火演習

歩兵第二十七聯隊第一中隊に於ては一昨夜午後七時より舊軍司令部附近より光熙門外に亘り發火演習を行ひたるが銃聲夜間の秋天を破つて一際勇ましく聞ねしが之をば知らずしてスワ暴徒の來襲と騷ぎ立てたる人もありしとか尚昨日は東大門外に於て同じく發火演習を試みたり

●各地其後の初霜と初氷

各地其後の初霜及初氷は左の如し

龍山（十月廿八日初霜） 京城（十月三十日初霜） 大連（十月三十日初氷） 元山（十月三十日初氷）

淸國大連の初霜は昨年に比すれば十九日平年に比すれば十五日早く京城、元山の初氷は昨年に比するに京城に於ては五日元山に於ては四日早しと云ふ

●收入多き自宅事務

東京市麻布區龍土町七十三番地普通士商會に於て今回募集する事務員は何人にても自宅にて家業の余暇に容易く從事し得るものにして該業務は至極確實且つ收入多く既に前回採用せし事務員にして今回報酬を受けし者は皆な十六圓二十圓、二十四圓等なりと云ふ

（二） 第三種郵便物認可 明治四十一年十一月六日 京城新聞 （金曜日） 第百三號

落語 湯屋番（三）

三遊亭圓遊口演

若「餘まり堪らないから徐々出ると熱いから「イニウ三イでポツと飛出して埋て貰はうと思つて見ると三助が午睡を爲て居るから起すのも氣の毒だと思て僕が往てね悉皆機械を緩めてドウ〳〵〳〵と一人で搔還して番臺の美形に見せたい一心で一生懸命に働きました

親「ウナツ……家で不性爲て湯屋へ往て働きやア世話ア無へ

若「漸う溫度百二十度位に成て恰好適當成りましたから サア是から暖まらうと思つて中へ這入りて好い心持ん成たから彌々逸を四十九唄ひました

親「恐ろしく唄つたねへ

若「すると番臺の女が女湯の御客と大層粹な聲ねへと話して居るのが聞ゑましたから此處が一生懸命と義太夫を六段巨東節を四つ唄つて長唄を七ツ遣つて遂々サイコトン〳〵で以て中で顚倒返りました

親「驚いたねへ

若「ウムーと云ふ聲を聞て例の女が飛んで來て和郞確乎被爲ましョと口へ水を含んで顏へプーッと掛て吳れたと見ねて不圖氣が注た時に鼻を傳つて其水が口へ這入つた時の甘るは兄哥未だに忘れねへ

親「何うも大變な騷ぎだなア

若「夫から私がジーッと其美人の顏を見ると先方でも私の顏を熟々凝視てアヽー好い男だと思つたんでせう

親「ヲイ馼に恐れ入たが和郞の顏は好い男と云ふ顏ぢやア無いせ

若「夫やア不可ない男と女とは見る處が違ふ何處服中のスヽドイ處か何かを見たんでせう

親「全で探偵を見たいな女だねへ

若「夫から上つて禮を云つて出て來る時に湯錢を十五錢置ました

親「平生吝ッ齒の癖に能く十五錢なんて思ひ切て置たねへ

若「其處は好男子てへ者はイザと云ふ時にやア離れ業を爲ます……貴郞是ではれ釣がッと云ふからエヽ宜うがすッと飛出して來ました夫から每日六度宛這入りに行ます

親「然んなに這入つて亦湯氣に上りますせ

若「ナーニ大丈夫……其處へ往ては容子を見るに私に充分惚て居ますんで

親「呆れたなア自惚の强いにやア何うも

若「デ段々噂を聞きやア那處の湯屋と貴郞ん家とは遠線ですってなア

親「然うか此一月年始に來た時に和郞さん屋根で日向ぼつこを爲て轉がり落て目を眩して屋根から落て御知近に成て馬陸みたいな人だつて大笑ひをして歸つた那の肥つた男……

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰一行金六十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郞
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西署西小門通